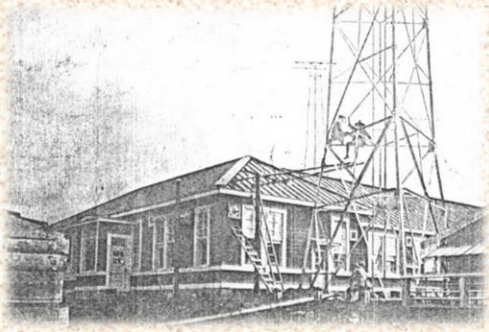
解体された紗那郵便局跡　今は「勝利広場」に（択捉島）

2012年5月撮影



紗那村のランドマークでもあった鉄塔は高さ30mで2基あった

紗那郵便局は一九三〇年（昭和五年）十一月に開局した。

それまでの通信は、根室～国後島～択捉島をつないでいた海底線が頼みの綱だったが、冬期間は流氷による断線事故が相次ぎ、島民から無線電信局開設の要望が上がり、電信局を併設する形で新築移転した。建設には漁業者らが資金を出し合った。

一九四五年八月二十八日、ソ連軍の留別上陸の第一報を無線で落石無線電信局に打電した歴史的施設としても知られた。

日本の市民団体と択捉島の行政府が保存、再建に向けて取り組んだ時期もあったが、結局、主権の問題がネックになり、最後は解体を余儀なくされた。

2015年6月9日解体

北方四島に残された日本建築のシンボル的存在だった択捉島の紗那郵便局。老朽化が激しく危険なことから二〇一五年六月九日に解体された。

その跡地には大祖国戦争（ナチスドイツとの戦争）に参加し、亡くなったロシア人島民約二百名の氏名を刻んだレリーフやモニュメントからなる「勝利広場」が整備された。

永遠の火をイメージしたというメインの石碑には「1941」「1945」の数字中央部分が星形にくり抜かれており、そこを通して海に沈む夕陽が輝く設計になっている（2016年9月撮影）

両サイドのプレートには大祖国戦争に参加した、島の英雄の氏名とともに「誰も忘れない　何も忘れられていない」と書かれている.（2016年9月撮影）